

平成31年度 特別選抜（推薦入試）

## 小論文問題

注意事項
------

- 1 開始の合図があるまで問題用紙・解答用紙を開けてはいけません。
- 2 問題用紙・解答用紙の定められた欄に必ず受験番号と氏名を記入しなさい。
- 3 問題用紙と解答用紙が別々になっています。表紙は切り離さずに解答しなさい。
- 4 問題用紙は表紙を入れて2枚、解答用紙が1枚、下書き用紙が1枚あります。
- 5 解答時間は60分です。
- 6 解答は解答用紙に横書きに記入しなさい。

受験番号		氏名	
------	--	----	--

【問題】 次の文章を読んで、「人間の不完全性」について、あなたの考えを 800 字以内で書きなさい。

## 人間の不完全性と意味

時間の中で生きている人間の本質的な有限性は、さきのことであってもいずれ死がおとずれるという事実にあらわれていますが、この時間的な有限性が、人生を意味のあるものにする唯一の有限性ではありません。ひとりひとりの人間が他の人間といっしょに生きているという有限性もおなじように、ひとりひとりの人生を無意味なものにはせず、むしろそもそも意味のあるものにするのです。私が知っているのは、人間が不完全であり、たとえばその人その人のさまざまな素質によって決まっている精神的な制約をもっているという事実のことです。

けれども、どうして、人間の不完全性にこそ意味があると考えられるかを説明するまえに、まず、自分自身の不完全さと至らなさに絶望するのは、そもそも正当なのかを問題にしたいと思います。なんといっても、自分の存在を自分のあるべき姿に照らし合わせる人、したがって自分自身に理想というものさしを当てる人が、まったくくだらない人間であるのかを問題にしなければなりません。自分自身に絶望することができるという、まさにその事実から、その人がなにかしら正しいことがわかり、絶望するほどのこともないことがわかるのではないのでしょうか。理想に目覚めることすらもないほどくだらない人間だったとすれば、彼はそもそも自分自身を裁判にかけることができたのでしょうか。自分自身を裁くことができるということは、その人に裁判官の尊厳と威厳がそなわっている証拠ではないのでしょうか。理想から離れていることに気づいたときにはもう、その理想にまったく背いてしまっているわけではないことも裏づけられるのではないのでしょうか。

さて、人間の不完全性とひとりひとりの人間の一面性に意味があるかどうかを問題にすることにしましょう。ひとりひとりの人間は、たしかに不完全ですが、それぞれ違った仕方で、「自分なりに」不完全なのだということを忘れてはなりません。その人のやり方で不完全なのはその人だけです。こうして、積極的に表現すると、ひとりひとりの人間が、なんらかの仕方でかけがえなく、代替不可能で、代わりがない存在になるのです。

この点について、ちょうど<sup>かつこう</sup>恰好のモデルが生物学の世界に見いだされます。ご存じのように、もともと生物の進化のはじめには、細胞は「万能」です。「原始的な」細胞はあらゆることができます。食べたり、運動したり、増殖したり、環境をなんらかのやりかたで「感覚」したり、いろいろなことができます。そして、より高等な有機体の細胞組織へと長いあいだかかって進化した結果はじめて、個々の細胞は特殊化して、とうとうたった一つの機能にしか適さないようになるのです。それが、有機体全体のなかで分業が進んでいく原理です。けれどもその場合、個々の細胞は、はじめの「完全」な能力の代わりに、代理不可能な機能を手に入れたのです。

こうして、たとえば、眼の網膜の細胞は、もはや食べたり、運動したり、増殖したりすることができません。けれども、網膜の細胞ができるたった一つのこと、つまり、視覚についていうと、いまでは、ずばぬけて見ることができるのです。そしてこの特殊な機能において、眼は代理不可能になったのです。たとえば、皮膚の細胞、筋肉の細胞、生殖細胞はけっしてもう、網膜の細胞を代理できないのです。

〈出典〉 著者：V. E. フランクル、訳者：山田邦男・松田美佳、それでも人生にイエスと言う、春秋社、1993年。